

平成29年度岐阜薬科大学入学式 式辞

本日ここに、平成29年度、学部第69回、並びに大学院第65回の入学式を挙行いたしましたところ、大変ご多忙にも拘わらず、細江・岐阜市長様、須賀・岐阜市議会副議長様、森脇・岐阜大学長様、宇野・岐阜薬科大学同窓会長様、吉元・岐阜薬科大学後援会長様はじめ、多くのご来賓の方々にご臨席を賜り、新入学生を祝福していただきますこと、大学を代表して心より厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

新入生の皆さん、大学院及び大学への入学、誠におめでとうございます。

長年にわたるご努力が実り、本日、入学式に臨まれました皆様方には、心からお祝い・お慶びを申し上げます。また、ご家族の皆様方におかれましても、そのお慶びはひとしおのものとなります。重ねて、お祝い・お慶びを申し上げます。

本当におめでとうございます。

さて、新入生の皆様は、本日から岐阜薬科大学の学生であります。

今日は、「本学の教育・研究体制など本学の概要」と、「これから学生生活を送られる上での心構え」などについて、お話しをさせていただきます。

まず、1つ目は「本学の概要」についてであります。

本学は、1932年、昭和7年に当時の松尾岐阜市長様、多額のご寄付をいただいた渡辺甚吉様をはじめとする多くの方々のご尽力により、岐阜市立の岐阜薬学専門学校として創立されました。その後、昭和24年の学制改革により岐阜市立の岐阜薬科大学として新しく発足し、その4年後、学部1期生が卒業される昭和28年には我が国における薬学系の大学としては初となる修士課程の大学院を、東京大学薬学部、京都大学薬学部とともに設置しました。更に昭和40年には大学院博士課程を設置するなど、高度な研究を基盤とする薬学教育の先鞭をつけてまいりました。

以来80有余年に及ぶ歴史の中で、建学の精神である「強く、正しく、明朗に」をモットーに高邁な人格形成と、「グリーン・ファーマシー」いわゆる「人と環境にやさしい薬学、安全で安心を提供できる薬学」を基本理念とした薬学教育を通じ、人の健康と福祉に貢献できる人材の育成に努めてまいりました。

その間、約1万1千人を超える卒業生が、病院や薬局などの医療機関、製薬会社などの医療業界、国や地方公共団体などの行政機関、更には大学や研究機関など幅広い分野で活躍されていることは、本学の誇りとするところであります。

さて、本学の教育・研究体制についてであります。本年度は大きな転換を図りました。

具体的には、従前は薬学科と薬科学科の2学科を設置し、それぞれ特色のある教育・研究を進めてまいりました。このうち、薬科学科の学生については修士課程修了後、科目等履修生として一定の単位を取得すれば特例的に国家試験受験資格が認められておりましたが、平成30年度入学の学生からはその特例が廃止されることとなりました。

このため、本学におきましてはこれらに対応する措置として、全国の17の薬学系の国公立大学としてははじめて、平成29年度入学生、すなわち新入生の皆さまから薬科学科を停止し、すべての学生が薬剤師の国家試験を受験することができる薬学科1学科としました。

そして、この新しい薬学科には、「医療薬学コース」と「創薬育薬コース」の2つのコースを新設し、「医療薬学コース」においては、従前の「薬学科」が目指していた「安全で確実な薬物療法を提供できる薬剤師」及び「地域や社会のニーズに向き合い、健康で質の高い社会を築くことに貢献できる薬剤師」の育成を、また、「創薬育薬コース」においては、薬剤師の資格を持って従前の「薬科学科」が目指していた「医薬品の研究、開発の中核となる研究者や技術者」、具体的には、医薬品の専門的な研究はもとより、医薬品開発をデザインしたり、医薬品の規制や流通のあり方、グローバル展開など経営的戦略を考えたりする、ダイナミックな高度の薬学専門知識を併せ持つ人材の育成を図ることとし、3年生後期からそれぞれのコースの研究室に配属し、教育・研究をする体制としました。

まさに新入生の皆様は、その先鞭となる学生であります。

次に、大学院におきましては、「伝統の中からこそ真の改革的教育・研究が生まれる」との信念のもと、情熱的で優れた教員の指導のもと、自由闊達な研究を進めております。また、「いかに患者さん個々人の治療の向上に役立つ薬へと改良していくか、また、正しく薬を使うかを研究する“育薬”」と、「難病治療などに向け、世界に発信できる新薬を研究する“創薬”」というプロジェクトに沿った研究も進めております。

更に、「疾患の早期発見や安全で有効な個別化治療」へと移行しつつある医療の社会的ニーズに応えるため、岐阜大学の医学部及び工学部の教育・研究機関と連携して、全国初となる国立大学法人と公立大学が連携した「岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科」を平成19年に開設し、創薬科学及び医療情報学を中心とする教育・研究を展開し、高度な専門性と先見性、柔軟な発想を有する最先端な領域で活躍できる人材の育成にも努めております。

その他、民間企業からの寄附講座として「グローバル・レギュラトリー・サイエンス講座」及び「化粧品健康学講座」を開設するとともに、岐阜県保健環境研究所との連携による危険ドラッグの検出技術の開発等、他の大学にはない取組を行っております。

また、大学での教育、研究成果を社会に還元し、地域の質を高めるための「知の拠点」として、生涯学習や市民講座をはじめとする市民を対象とした教育講座や、地域包括ケアシステムを

推進するために重要な役割を果たす「かかりつけ薬剤師」を養成するため、現在社会で活躍してみえる薬剤師を対象に、平成28年度から「岐阜薬科大学認定薬剤師」講習会を開設し、昨年度は13名の認定薬剤師を輩出するなど、地域及び国際社会に貢献する取り組みも進めております。

今後は、益々進展する「超長寿社会・高齢化社会」や、環境技術がキーワードとなる高度文明社会において、高度な研究に裏付けられた教育のできる大学を、関係機関などと力を合わせ目指してまいります。

次に2つ目の「学生生活を送られるうえでの心構え」、具体的には「学び」、「学問の道」についてお話しさせていただきます。

大学生としての学びのスタイルは、高校までのそれとは大きく異なります。高校時代は「教えられる人」として「生徒」と呼ばれていました。しかし、大学の学びのスタイルは、自ら求めて学び、自ら考え、自らの考えを持ち、獲得した知識を活用し、表現し、実践することです。まさに「学ぶ人」、「学生」であります。

イギリスの著名な著述家で医師でもあります「サミュエル・スマイルズ」は著書「Self-Help」、日本語では「自助論」として出版されておりますが、その中で「他人から押し付けられた教育は、自分で熱心に努力して得たものほど身に付かない。自らの汗と涙で勝ち取った知識だけが、完全に自分の所有物となる。自分自身が勉強すれば、その内容についての印象はいつまでも鮮明に残る。人から与えられた情報とは違って脳裏にはっきり刻み込まれる。このような自己修養は、同時に新たな学問への情熱を呼び起こし、それを強める。一つの問題を解けば、それが次の問題を征服する励みとなり、知識は次第に実際の用を足すものになる。要するに能動的に学ぶ姿勢が肝要である。」と述べております。もちろん、皆様方はこれからも多くの先生方から多くの教養を受けなければなりません、学生の本分を忘れることなく、自ら学問を収めることに強い意欲と気概を持って、日々、前進する生活を送ってください。

学問の道は極めて面白いものです。困難を乗り越え、またスランプに落ちた時は、日々努力し、再起していくのが学問の道であります。常に向上心、問題意識を持って、「夢」を持ち、「夢」をただ「夢」で終わらせるのではなく、「夢」を「目標」として努力し、「実現」してください。

新入生の皆さん、薬学の道を究めるところができる環境を与えていただいた、ご家族、そしてこれまで指導していただいた多くの恩人に感謝し、その期待に報いるためにも、これからの学生生活の中で、多くの先生、多くの友に出会い、その出会いからさらに多くの知識、言葉に出会って、自ら豊かな感性と悟性の涵養に努めていただきたいと思います。

さらにグローバル社会に適切に対応するため、機会があれば積極的に海外に出向き、異文化に触れることにも心がけていただければと思います。

一度しかない貴重な青春時代を有意義に、かつ満ち足りた学生生活を送られることを祈念いたしますとともに、私ども岐阜薬科大学すべての教職員が全力でサポートすることをお約束し、私からの式辞といたします。

平成28年4月8日

岐阜薬科大学長 稲垣 隆司